

フードバンク + 隅田川医療相談会が一つになりました。

小さな声を集める・伝える



2022年12月吉日

発行：一般社団法人 あじいる

2022 Vol.8 [NEWS]

一般社団法人 あじいる

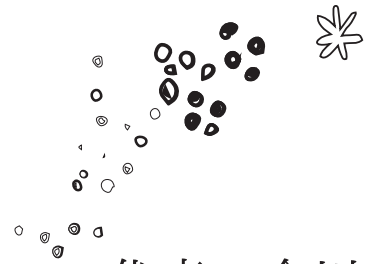
# つぶやき

tuguwagi 



どしゃ降りの中の相談会を終えて「自由ひろば」にて／撮影・山崎まどか

# この世界に必要なもの



代表 今川 篤子

秋の穏やかな光は、東京の下町の小さな部屋にも差し込んでくる。けれど、今朝は、北朝鮮からのミサイルのアラートのためなのか、いつもは賑やかな路地の人通りもまばらで、静かな「文化の日」である。考えてみれば皮肉なことだ。日常を離れて魂を昇華させようとする日に、人の心の最も野蛮な「攻撃と殺戮の本能」と向き合わなくてはいけないとは。

現代社会の不気味さは、これまで価値があることとされていたことが、覆されたり、曖昧にされているにあると思う。「真・善・美」という絶対的な価値観が、ゆがめられ、ないがしろにされているように感じる。

## 価値観の否定と世の潮流

たとえば、「貧富の差があることはよくないことだ」「人は互いに尊重し合って協調して生きるべきだ」「誰でも健康に生きる望みを持ち、等しくかなえられるべきだ」「自分の利益だけを追い求めてはいけない」「政治家は人々の代表として人々のために、ひとりも取りこぼさない政治を行うべきだ」「憲法は権力を縛るためにあるものだ」「戦争をすることはよくないことだ」これらは、私自身正しいと信じていることであるが、世界はいま、これらの価値観を次々否定していく方向に向かっていて、もうその潮流は止めることは出来ないのではないかとすら思える。

強権・排他主義、独裁への回帰、格差の拡大が肯定、あるいは仕方がないと容認されていく世界…。直面する過酷な自然環境や感染症も、人類が一枚岩になるどころか、ますます分断や格差を悪化させてしまった。

## すぐそばにある風景

そんなことを考えていると、「どうして今まで自分は何もできなかったのだろう」と落ち込んでしまう。そんな時、「あじいる」での、いろいろな出来事を思い出し、心を和ませる。そこには、ちょっと「浮世ばなれした」世界がある。

あるメンバーは、真夏に経口補水液のペットボトルと紙コップを持ち歩き、必要とする人を探しながら歩いていた。気候変動は最も立場の弱い人々に打撃を与える。この夏の路上生活の苛酷さを取材したいと記者さんが夜回りに加わってくれた。

大学の教員であるメンバーは、多様な一人ひとりが暮らしている「隅田川地域」を研究し、地域でつながって生きることの大切さを再認識させてくれた。

看護学生さんたちは、医療を諦めている路上の人々と対話し、「目を背けていたことも実は身近にあり、実は誰にでも起こりうることだった」と気づきを述べ、重症の皮膚病に苦しむ相談者を目の当たりにして「健康を享受する権利が保障されていないと感じた」と語った。



仮放免の外国人の仲間たちとの触れ合いは、学ぶことが多すぎる。日本がみんなにしている法的な酷い仕打ちを思うと痛みを伴うが、心配は喜んで受け止められ、暖かい言葉が悩みと疲れを吹き飛ばしてくれる。

## 底に流れる水脈

「あじいる」の根底にあるのは、本当の家族ではないのに「家族っぽい」、お互いに気にし合う関係性のように感じる。民族や職業や年齢などの属性がどうでもいい、フラットな関係である。ちょっと大げさだけど、今、世界に必要なのは、そういう空気だと思う。



誕生月の医療相談会で仲間から抱えきれないほどの贈り物を手渡された



夜回りで体調を尋ね、必要な方にはその場で血圧の計測なども行う

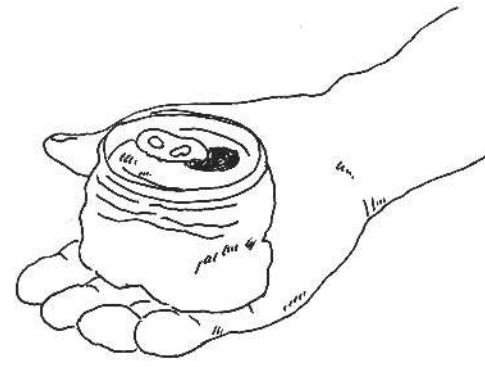
ALTRUISM (アルテューリズム) という言葉がある。あじいるの活動を留学生に説明しようと考えているときに見つけた。利他主義、と訳される。

2019 年に来日したフランシスコ教皇のメッセージのなかに「川は自らの水をのむことはない。木々は自分が食べるために果物を実らせるのではない。他者の為生きることは自然の摂理。われらもみんな互いに助け合うために生まれた」という言葉があった。

天台宗の開祖、最澄の言葉「一隅を照らす」の精神も、共通するものがある。それぞれの置かれた場所で奉仕の光を他者のために発すれば、やがて社会全体が明るくなるという教えである。

へとへとに疲れたり、失敗して弱い自分に直面するときには、理想など信じられなくなるけれど…何かをするために生まれさせてもらったのだと信じ、仲間の力を信じて、これからもいっしょに歩き続けましょう。

# 新しい仲間と共に 資源回収で 生まれたモノ



荒川 茂子

毎週木曜日の資源集めの日がしんどい。年を取ったり体が悪くなって、大量の段ボールを集めたり、整理するのがつらい。商店街の段ボール集めは楽しいけれど、人が減っていく中で、さてどうしようか…。

こんな状況の中から、新しい仲間が必要だとみんなが切実に思い始めた。その時出てきたのが、近くのシェルターに住んでいる外国籍の人達だ。

彼らは、それまで医療相談会や作業日の手伝いに来てくれていて、あじいるのメンバーとも顔見知りになっていた。

それでも基本的に新しいことに二の足を踏む傾向が強い面々だ。「言葉が通じないんじゃないか」「勝手なことをされたら困る」等々、ネガティブな声もある中、とにかくやってみようと始めたのだ。

## 春・スタートライン

来てくれたのは、ともにアフリカ系のAさん、Tさん。そこから、70代、80代のおじさん?を中心にしたあじいるのメンバーと40代50代の屈強なアフリカ系外国人2人を含んだ珍道中が始まる。それが今年の4月のことだ。

彼らは、難民申請中の仮放免の人達である。働くことも禁止されて、全くの無権利状態に置かれている。そんな彼らが、昼食だけを保証されているこのあじいるのボランティア活動に参加してくれるのか心配でもあった。

しかし、最初の方こそ何をやっていいのかとまどっていたようだが、今となっては彼らがいないと始まらない状況だ。

特にAさんは日本に長いということもあり、日本語は不自由しない。寡黙だがまじめで休まず参加してくれる。周りをよく見ていて、自分が何をやったらいいかを判断し、本当によく動く。

私が段ボールを持っていると、飛んできて「ぼくがやる」と持ってくれる。商店街のどこのお店が段ボールをくれるのかわかっていて、先に行って準備してしてくれる。

私もつい重いものがあると「Aさん。お願い」と声をかけてしまう。彼らの存在は、私たちにとってなくてはならない存在になりつつある。

## 同じ目標が原動力

毎週木曜日の資源回収。あじいるの仲間にとって、居場所であるとともに社会的な活動の場だ。近くの商店街にリヤカーを引っ張って、声かけをしながら段ボールを集める。

そしてその段ボールを売ることにより、地域の子ども食堂、居場所へのカンパとして還元されていく。

このしくみは、あじいるにとっても商店街の人々にとっても、「地域の子ども達のために!」という1つの共通の目標となる。商店街の方からの「ご苦労様」という声は、それを象徴しているだろう。だからこそ、肉体的にはかなり大変ではあるけれど、雨の日も風の日も休まず参加し続けられる原動力になっているのかなと思う。

さてそんなあじいるの資源回収だが、開始して早3年が過ぎた。この3年間でももちろんみんなその分年も取り





一緒にまちを歩き、商店街から集めた段ボールを計量し、まとめていく

この間、病気が見つかってこれまでの活動が難しくなった仲間もいる。そんな中で登場した外国籍の仲間たち。まだまだ彼らのおかれている状況が把握できていない部分も多い。

## 交流を起点に関係性を深める

彼らがなぜ日本に来たのか？来ざるを得なかったのか？入管という存在は彼らにとってはどういう存在なのか？この日本という国は、こうした外国から来た人々にとって、どんな存在なのか？まだまだわからない部分が多い。

しかし、彼らとの関係は確実に深まりつつある。そんな具体的な関係や感情の交流を出発点にして、彼らのおかれている状況を学びながら、より深い関係を築いていけたらと思う。

毎回、昼食を食べないAさんが帰る時にお弁当を作って渡しているのだが、ある時寡黙なAさんが「いつもお弁当ありがとうね。おいしいよ」と言ってくれた言葉が忘れられない。



医療相談会でも強力な助っ人Aさんです。



入管の中で描いたTさんの絵

Tさんは散髪ブースで活躍。仲間の誕生日には、ジャンベも演奏してくれた。



# 坪一さん

## 「きぼうのいえ」へ

荒川 朋世

「最後まで山谷で暮らしたい」と思った仲間たちを最後まで看取るホスピスが「NPO 法人きぼうのいえ」である。冊子「あじいる」の創刊号である坪一さんが8月末に入居した。アパートで一人暮らしだった坪一さんは今年6月で90歳。みんなでお祝いをしたばかりだった。

82歳の時に初めて出会ってから、毎年「今年が最後だ」が口癖。じん肺により息苦しさがひどくなる中も何とかアパートで一人暮らしを続けてきた。電動3輪車で近所の買い物や病院の受診を続けてきたが、今年の夏はつらかった。6月からの異常な暑さにより、近所の買い物に行くのもつらくなる。地域包括支援センターにつながってはいるものの、自立心が強いので、ケアマネさんやヘルパーさんを頼ることができないのが坪一さんだ。

昔は酒もたばこもしたけれど、体を悪くしてからは食事に気を使い、誰かに頼ることなく家事もする。だからこそ90歳まで元気に生きてこられた。

しかし、その時期に主治医のひまわり診療所の毛利先生からは「そろそろ坪一さんがアパートで生活することが厳しくなってくるかもしれない」と言われた。

多くの人がそうだと思うが、今まで築いてきた生活や環境を変えるのは、体も心もしんどいことだ。90歳になる坪一さんの体は動かなくなってきたが、頭はしっかりしている。今までも施設の話が全くなかったわけではなかった。しかし、自立と自由を愛する坪一さんが入居するまでには至らなかった。今年の夏はよっぽどつらかったのだろう、主治医からの勧めもあり、「もうアパートは無理だな…」

と自分で決断した。

そうとなれば話が早い。山谷のホスピス「きぼうのいえ」や、訪問看護ステーション「コスモス」、訪問診療にはあじいるの代表今川が行けるように手続きを進める。手続きを始めたらずい動いてくれる皆さま方に本当に感謝する。

無事に入居できたのが8月末だ。一緒に活動しているあじいるの仲間たちもひと安心。最年長の坪一さんの存在



米づくりでも酸素ポンペを背負って一緒に活動してきた





坪一さんが削岩夫として働いた足尾銅山。1962年テレビドラマ「人間の条件」撮影風景。

があるからこそ、「俺もまだまだ若い」「坪一さんが頑張ってるんだから俺も頑張らない」と仲間の生きるモチベーションにつながっている。

9月の医療相談会の後にはみんなで会いに行った。

コロナ禍のため施設内に入ることはできないが、2階の窓から顔を出してもらい話をする。顔色もよく、何かあればすぐに誰かが駆けつけてきてくれる環境のため、本人も安心した様子だ。お出かけは車いすに乗って、山谷の「泪橋ホール」まで。コーヒーを飲んだり、石やんのカラオケの歌を聴いたり、足尾銅山や山谷で働いてきたことを語ったり…。少し目が赤くなる坪一さん。

コロナがもう少し落ち着いたら、少し遠くまで出かけよう。最後にもう一度足尾銅山の跡地に行ってみるのもいいかもしれない。米作りをしている群馬の板倉にも遊びに行き、田んぼを眺めるのもいいかも。また来年も「今年が最後だな」と聞けますように。



1958年(昭和33年)、足尾銅山で働き始めた頃の坪一さん(後列左から2番目)





# Report

ひと・もの・暮らし  
あらかわ再発見 2022

## 地域に根を張る+祭りをつくる

「土曜日、雨降るの？」

仲間たちと何度もしたこの会話。

2019年を最後に「おまつり」という形で行えなかった「ひと・もの・暮らしあらかわ再発見」。今年は3年ぶりに、いつもの公園で開催することになりました。あの公園で、いつものメンバーで、地域の人たちと出会う。この数ヶ月は、期待と高揚感で胸をふくらませていました。

天気予報がコロコロ変わり、なぜか本番の26日だけが雨予報!今までずっと晴れだったのに!いや、毎年晴れていたんだから、今年もきっと、大丈夫…!自分たちにそう言い聞かせながら、盆踊りのお立ち台を作り、フランクフルトや健康相談の準備をし、お互いのスケジュールを確認し合っ、あっという間に本番を迎えることとなりました。

「雨が降ってきた!」

おまつり当日。朝鮮打楽器を演奏しながら舞うプンムルノリが始まると、大粒の雨が降り出しました。降りしきる雨の中、赤、青、黄色の華やかな衣装で舞う姿は、とても幻想的で見ごたえ抜群でした。

だがしかし、とうとう降ってきてしまった… 予想以上の大降りに、その場にいた多くの人が不安になったはず。でもどうでしょう、しばらくすると雨がさっとあがり、太陽まで見えてきたのです。予想外の展開に、私たちの気持ちも晴れ、お客さんもどんどんやってきました。朝鮮の伝統的な舞が、大地の恵みである雨を降らせ、そして、私たちに太陽を呼び戻してくれたようでした。

「フランクフルト、いかがですか〜!」

あじいるのブースでは、フランクフルトを売り、健康相談とマッサージコーナーを開きました。今年は100本弱のフランクフルトを用意しましたが、鉄板でじっくりと焼きあげたフランクフルトはあっという間に完売に。「だから言っただろう、少ないって」「来年は200本は用意しなきゃ!」仲間たちからこんな声があがってくるのは想像に難くありません。

健康相談とマッサージにもたくさんの方が訪れてくれました。特に、今年から新設したマッサージには、仮放免の仲間Tさんの熱心な呼び込みで、10人ものお客さんが来ました。おかげさまで(?)、マッサージ担当者も早々に程よい疲労を迎え、マッサージは盛況の中「売り切れ御免」となりました。

おまつり中、私は何度も公園を見渡しました。いつ見ても、子どもから高齢者までたくさんの人たちが、思い思いの時間を過ごしていました。準備の時間からおまつりが始まるのをベンチで待っている高齢者の方、ゲームやお絵描き、スタンプラリーを楽しむたくさんの親子、観覧席でゆっくりコーヒーとお菓子を楽しむ人、偶然公園のそばを通りかかり、おまつりに参加してくれた人。ステージが始まれば、多くの人が肩を揺らし、時には踊り、口ずさみ、拍手をし、歓声をあげ…最後まで大いに盛り上がりました。

普段はそれぞれの暮らしがある人たちが、一つの場所に集まり、同じ時間を過ごす。そんな空間を仲間たちと一緒に作り、地域の人たちと共有することができた。こうやって積み重ねていくことが、地域で暮らし、地域とともに生きることなんだと、改めて実感したひとときでした。

「来年も、みんなでやるぞー!」 文・仲嶺 菜美子





## VOICE

外国人支援からあじいるへ  
活動へ参加するきっかけも  
人それぞれ。  
ひとりの声を届けます

フードバンク共同作業日の米や食料の配送準備風景

はじめまして野中敏幸といいます。去年の8月頃から活動に参加させていただいています。普段は仕事の合間に、入管収容所での面会活動、難民申請中の仮放免中の方々のお手伝いをしています。

活動に参加するようになったのは、友人の病院受診の相談のために医療相談会、山谷堀広場を訪れたのがきっかけです。

はじめて訪れた相談会の場所でしたが、入管で出会った事のある方も思いがけず再会しました。

無事を知ることが出来ただけでなく、共に相談会の作業を行う事ができる事にとっても感謝の気持ちが沸いたことをよく覚えていてます。

共に訪れた友人も、以前近くで暮らしていた方で、お知り合いと再会され無事をよろこんでおられました。

思いがけず無事を確認する場所になり、それ以来、月に一度、体調の良い時に相談会の作業に参加されるようになりました。

相談会が行われる広場には、年齢も色々で、なおかつ多国籍な集まりが出来上がっています。挨拶とお互いの体調を気遣う言葉が聞こえて来る和気あいあいとした雰囲気。情報交換など交流する場にもなっています。

トラックの荷台丁度に積み込まれた机や椅子、荷物を降ろし、相談会に来る方々のための椅子や机を並べ、食事を届ける準備をします。どこへ何を運ぶか、ところどころ教えてくれる方がいて、テントを設置する作業も自然発生的に人が集まって進んでいきます。

誰かの困りごとを聞くための作業であることを意識しながら、それでいてどこかゆったりとした雰囲気の中、そこへ参加できる出来る事をととても貴重に感じています。

入管収容所での面会活動や、仮放免という状況で暮らす方々との関わりを通して、暮らしや命が脅かされる状態を行政が作ってしまう事を見ました。生活の前提として誰しもが必要とする住居、医療について難しい事ばかり。路上で心配になる様子の方に声をかけても一人では出来る事に限界があり、すこしずつそうした心残りの事が積もっていきます。

一方で、相談会やそれにつながる準備作業では、上に述べたように、暮らしや健康を気遣う窓口が、フラットな関係性の作業で作られていきます。コロナ禍のなか、そうした場所がつづけられてきたことは簡単な事ではないと思います。そうした場所の作業に参加したいと自然に思うようになりました。

毎月の作業日には、届けられたお米や食品の仕分け、配達のお手伝い、薬の袋詰めやニュースレターの発送準備等々の作業があります。

お誕生日の祝福、入院された方への励ましの寄せ書き。楽しい会話が時折聞こえてきます。お手伝いをするつもりが、いつも何かをいただいて帰るような気持ちで家路についています。

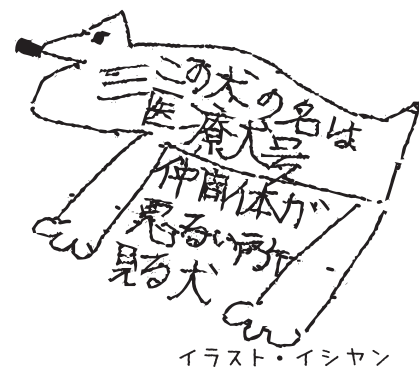
つぶやき、の「お米の配送状況」の表を見ますと、沢山の配送先があります。“外国人支援”という項目はたくさんの配送先の中の一つです。みなさんの経験、福祉の事も教わりながら、これからも参加してみたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。 文・野中 敏幸

# 2022.4→2022.9

## 活動報告

あじいるの6つの取組みから2つのご報告。  
カンパと寄付で実施しました。

池上 哉美



## 隅田川医療相談会

### 夜回り

医療相談会の前日、浅草・上野の2か所を回る。  
路上で寝ている方たちに、毛布や相談会の案内チラシを配りながら、声をかけて回る

浅草 210名 上野 389名

### 医療 相談会

毎月第3日曜日、隅田公園山谷堀広場にて開催。

医療相談	21名	医師・看護師による健康相談。血圧などの簡易的な検査も実施
紹介状	2名	40代／1名、50代／5名、60代／8名、70代／4名 80代／2名、記録無／1名
お薬	211名	相談に基づき、内容により3日分の市販薬を配布 医療従事者が担当。
鍼灸	37名	身体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う
散髪	120名	会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る
フットケア	11名	足を洗ったり爪を切ることが難しい方へのフットケア
炊事	476名	仲間のご飯をみんなで作る！
生活相談	32名	生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談
アパート相談	1名	生活保護受給後のアパート転宅等、住まいに関する相談
法律相談	5名	債務整理その他、法律家による相談

### フォロー 活動

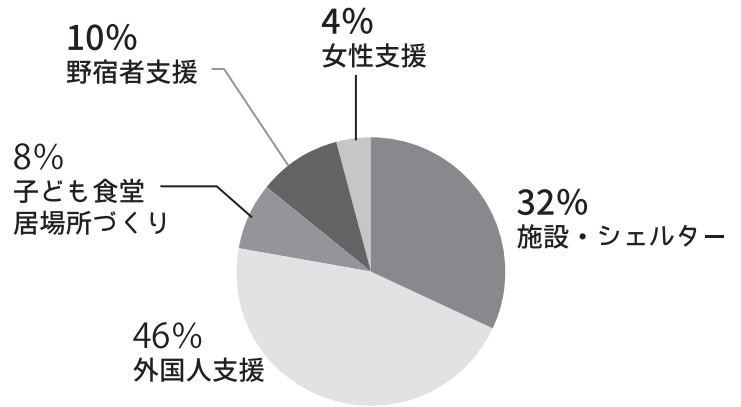
相談に来た方たちの中で、生活保護の利用を希望する方や、継続的な治療が必要な方の  
医療機関・福祉事務所への同行を行う。入院した方のお見舞いや、継続的な相談の対応  
21名





# お米の配送

27団体へ **6,617 kg**のお米を  
届けることができました



お米の配送状況（2022年4月～2022年9月）

単位: Kg

登録団体名(受け渡し先)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
施設・シェルター	かわさきキャンプラースアクションポート	60	60	60	60	60	60	360
	サークルドア	80	60	80	70	80	70	440
	ホームとらむ	10	15	10		10		45
	ぽたらか			20				20
	みのわマック	80	100	100	100	100	100	580
	友愛会	120	80	120	120	120	140	700
外国人支援	カトリック東京国際センター	150	150	200	100	100	50	750
	北関東医療相談会	600	300	480		300	200	1,880
	難民支援協会	60	80	50	80	50	60	380
	反貧困ネットワーク	20						20
子ども食堂・居場所作り	足立インターナショナル・アカデミー			10	10			20
	荒川ボランティアセンター		30			30	30	90
	子どもの居場所イン町屋	10		10	15	10	10	55
	子ども村ホッとステーション			30				30
	タヴェルナ～小さな食堂～			20			20	40
	バイタル・プロジェクト					10		10
	東日暮里子ども食堂			10	10		10	30
	みやまえの家	40	40	40	40	40	40	240
野宿者支援	浅草聖ヨハネ教会			30	30	20		80
	足立野宿者支援の会さくら		50	50	50	50	50	250
	大田幸陽会	15	15	15	15	5	15	80
	山谷夜廻りの会		30	30			20	80
	末日聖徒イエスキリスト教会	30	30	30	30	30	20	170
	あじいる						12	12
	女性支援	女性ネットSaya-Saya	30	30	30	30	30	30
女性の家HELP	60						60	
BONDプロジェクト				10	5		15	
合計		1365	1,070	1,425	770	1,050	937	6,617

お米のカンパ受取&購入状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
654	242	1,338	1,120	525	325	4,204

# カンパのお願い

一人ひとりの生命を支える  
サポーターになる！

□皆さまからの会費・カンパに支えられて活動を続けています

お米や食品を備蓄する「低温冷蔵庫」の維持費／物資運搬の車両・燃料費  
医薬品、備品の購入、共同炊事の経費、医療機関・福祉事務所への交通費  
広報物の印刷費用、事務所経費などに使わせて頂きます。



お米

- 3年以内のもの
- 玄米・白米ともに受け付けています
- 外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- 大口（100kg以上）の場合は事前にご連絡ください

食品

- 賞味期限が2ヵ月以上残っているもの
- 日持ちするもの  
レトルト食品、缶詰、調味料、乾麺、非常用食品など

物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品  
\*靴下、男性用下着、タオル、カミソリ、石けん  
湿布薬、小型ラジオ、テレフォンカード  
未使用切手、ハガキ。

お願い

- 受け取ることができません！
- ×賞味期限が2ヵ月未満のもの
- ×開封後の食品
- ×生鮮食品
- ×商品説明が外国語のみのもの

お送り頂く際の送料はご負担いただきます。  
ご了承ください。

会員

賛助会費 一口：3,000円（年間）

振込先

- 銀行振込  
ゆうちょ銀行 ○一九店  
口座名義：一般社団法人 あじいる  
当座預金：0673914
- 郵便振替  
口座番号：00110-0-673914  
口座名義：一般社団法人 あじいる

参加

ボランティア

一緒に活動して仲間になる

医療相談、夜回り、登録団体への食料の配送作業  
イベントへの出店など、社会人だけでなく、学生など  
どなたでも参加いただけます。  
初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

送付・お問い合わせ先

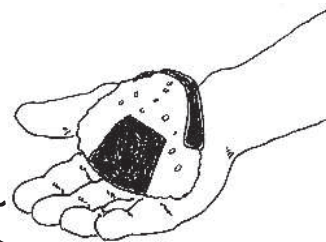
一般社団法人 あじいる

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里1-36-10 あうん気付

TEL:03-5850-4863 FAX:03-5850-4864

Email:aji\_iru@yahoo.co.jp

応援して  
ください



facebook 情報発信しています!  
Twitter @agile\_2019